岡本松造（おかもとまつぞう）

「ムリ」「ムラ」「ムダ」をなくしたノーリツ号

－自転車産業の先駆者－

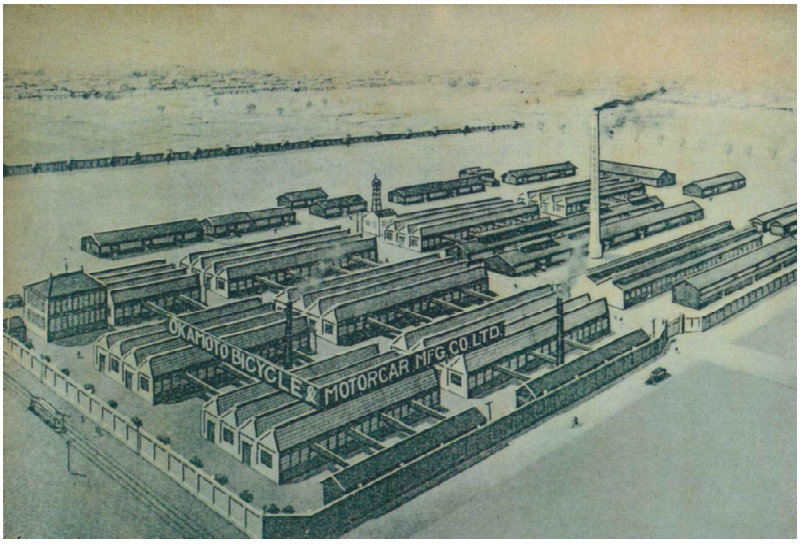
岡本松造（1876 ～ 1942）
出典：『自転車万歳リーリツ88年の歩み』

■渡米、渡欧で先端技術を学ぶ

1876（明治9）年、岡本松造は奈良県磯城（しき）郡に生まれ、名古屋へ出て鍛冶職の技術を身につけ、23歳の1899（明治32）年、合資会社岡本鉄工所を名古屋市七本松に設立して、自転車フレーム、部品の製造を開始した。当時の名古屋の自転車保有台数はわずか約900台で、大半は米国、英国製など外国製自転車であった。岡本は渡欧、渡米して先端技術を学び、3年後には自家製自転車80台を造り、完成車メーカーとしてスタートした。同年代には東京では鉄砲鍛冶宮田栄助がミヤタ自転車を製造するなど、東京・名古屋・大阪を主として日本の自転車産業が興った時期である。

■「ノーリツイズム」の事業精神

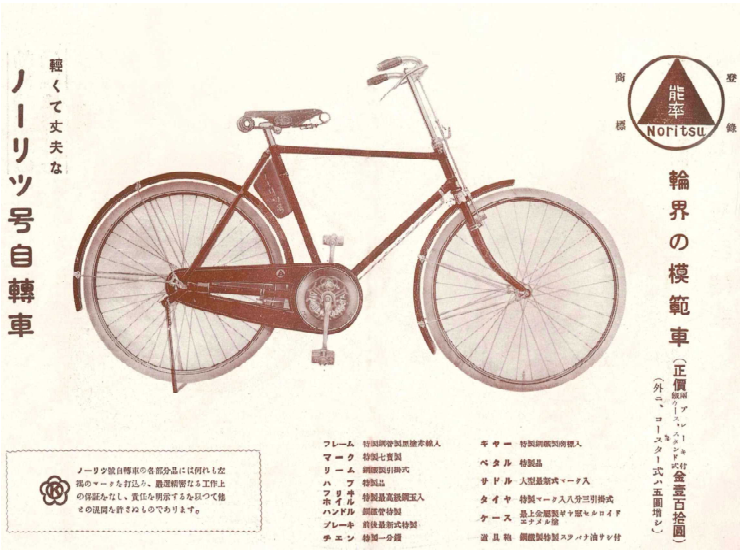
1910（明治43）年に弟徳松と直次郎を呼び寄せて、岡本兄弟合資会社と改名した。岡本の自転車が経営規模を広げたのは第一次大戦1914.7-1918.1（大正3-7）年による日本の好況である。大戦後の翌1919年に名古屋市御器所（ごきそ）町に敷地2万3000坪の工場を建設し、会社を再度改名し株式会社岡本自転車自動車製作所とした。自転車名はエンパイア号から「ムリ」をせぬよう「ムラ」のないよう「ムダ」をせぬようにと「ノーリツイムズ」の事業精神から自転車をノーリツ号と名付け、単一の量産方式に切り替えた。1923（大正12）年には単一ブランドによる月産1万台を生産した。また自動二輪車（オートバイ）、側車付き自動二輪車（サイドカー）、航空機部品の製造にも着手した。1932（昭和7）年には日本車輌製造、大隈鐵工所、愛知時計電気の4社と共同で日本初の純国産乗用自動車「アツタ」号を完成させた。その後、軍需生産増強の要請もあり名古屋・笠寺・大垣・一宮・垂井・新潟・九州・犬山に工場を建設、3万人余の従業員を抱えるまでになっていった。



（株）岡本自転車自動車製作所、大正期の工場全景
（名古屋市御器所町）

岡本は時代を先取りし、将来自転車にとって代わるものは四輪の自動車だと予想し、順調に事業を拡大していった矢先、戦時中の1942（昭和17）年に急死、67歳であった。岡本のノーリツ自転車は戦後も全国隅々まで売れ、知れ渡ったが1983（昭和58）年に廃業している。

（冨成一也）



全国に流通したリーリツ号自転車
マークは当初、三角の旗を振って自転車に乗る人であったが、類似や模造が多数出まわったことから、昭和3年に三角形の「能率」マークに改められた。